日　ソ　知　事　懇　談　会

議　事　録

昭　和　４　５　年　５　月

於　　帝国ホテル亀の間

全　国　有　志　知　事

写真あり

日・ソ知事懇談会（5月30日、帝国ホテル）で。左側がソ連知事団――右からトロヤノフスキー大使、チョルヌイ、ピボバロフ、バラキン、クラフチェンコ、シェフツォフ、ドミトリエフの各氏

目　　次

第 1．日ソ知事懇談会次第……1 頁

第 2．出席者一覧……2

第 3．議　事　概　要……4

〔付〕ソ連邦地方および州勤労者代議員ソビエト
執行委員会議長の訪日に関する日ソ共同声
明（1970 年 6 月 8 日．東京）……34

昭和 45 年度ソ連知事団を招侍する有志知事名簿……37

第１　日ソ知事懇談会次第

日　時：昭和 45 年 5 月 30 日（土）
午前 9 時～12 時
場　所：帝国ホテル新館 3 階　亀の間

1．開　　会
2．日本側知事紹介　　福島県知事
3．ソ連側知事紹介　　A・K・チヨルヌイ知事
4．来賓祝辞　（ソ連側　ソ連駐日大使　O・A・トロヤノフスキー大使／日本側　衆議院議員　稲葉　修氏）
5．有志知事代表挨拶　　福島県知事
6．ソ連知事団団長挨拶　　A・K・チヨルヌイ知事
7．座長選出
8．座長就任挨拶
9．議題採択
10．議　　事
　(1)（日ソ共同提案）日ソ沿岸貿易の振興について
　　報告者（ソ連側、A・K・チヨルヌイ知事／日本側、山梨県知事）
　(2)（　〃　）文化交流について
　　報告貴（ソ連側、G・N・バラキン知事／日本側、兵庫県知事）
　(3)その他
11．会議終了
12．ソ連知事団代表挨拶　　A・K・チヨルヌイ知事
13．有志知事代表挨拶　　香川県知事
14．閉　　会

第 2　出 席 者 一 覧

ソ　連　側

ハバロフスク地方　知　事	A・K・チョルヌイ
ブリヤート自治共和国首相	N・B・ピボバロフ
沿　海　地　方　知　事	G・N・バラキン
イルクーツク州知事	Y・A・クラフチェンコ
サハリン州知事	A・V・シェフツオフ
チ　タ　州　知　事	N・I・ドミトリエフ

〔随員〕　ソ連科学アカデミー東洋学研究所所員

V・T・フェジャイノフ

日　本　側

青　森　県　知　事	竹　内　俊　吉
秋　田　県　知　事	小　畑　勇二郎
福　島　県　知　事	木　村　守　江
新　潟　県　知　事	亘　　四　郎
山　梨　県　知　事	田　辺　国　男
富　山　県　知　事	中　田　幸　吉
兵　庫　県　知　事	金　井　元　彦
香　川　県　知　事	金　子　正　則
大　分　県　知　事	木　下　　郁
愛　知　県　副　知　事	岩　瀬　繁　一
山　口　県　副　知　事	岸　本　孝　二

来　　賓

在　日　ソ　連　大　使　　O・A・トロヤノフスキー

衆議院議員　　稲　葉　　修

日本海沿岸貿易促進議員懇談会会長

外務省欧亜局参事官　　中　尾　賢　次

オブザーバー

ソ連大使館参事官　　A・S・チャソブニコフ

同　一　等　書　記　官　　V・V・デニソフ

同　二　等　書　記　官　　B・I・ウグリノビッチ

大　使　館　員　　A・N・パノフ

各県東京事務所長

各新聞通信社記者

事　務　局

全国知事会事務局長　　宮　内　　弥

同　　渉外部長　　小　川　政　吉

ソ連産業技術研究所副所長　　久　野　　公

第３　議　事　概　要

午前９時開会

○　宮内全国知事会事務局長　皆さまお早うございます。早々全員の皆さまはじめ、関係者のおそろいをいただきましたので、これより日ソ知事懇談会を開会いたします。

私は全国知事会事務局長の宮内でございます。失礼でございますが、皆さんから座長さんをご推挙いただくまでの間、私は皆さまのご了承をいただきまして会を進行させていただきたいと存じます。

それでは福島県知事さんから日本側知事さんのご紹介がございます。

○　木村福島県知事　それでは日本側の知事をご紹介いたします。

隣が青森県知事の竹内さんでございます。（拍手）その隣が秋田県知事の小畑さんでございます。（拍手）その隣が新潟県知事の亘さんでございます。（拍手）その隣が富山県知事の中田さんでございます。（拍手）その隣が兵庫県知事の金井さんでございます。（拍手）その隣が香川県知事の金子さんでございます。（拍手）その隣が大分県知事の木下さんでございます。（拍手）その隣が愛知県副知事の岩瀬さんでございます。（拍手）その隣が山口県副知事の岸本さんでございます。（拍手）

○　宮内全国知事会事務局長　次にチョルヌイ・ハバロフスク地方知事さんにソ連の知事さんのご紹介をお願いいたします。

○　チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　尊敬する皆さま、同志の皆さん、今回の日本の知事さんとの懇談会に参加するソ連の極東及び東シベリアの地方と洲の勤労者代議員ソビエト執行委員会議長の代表団の方々をご紹介したいと思います。

隣がブリヤート自治共和国の首相ピヴオヴアロフさんでございます。（拍手）その隣が沿海地方知事さんで、勤労者代議員ソビエト執行委員会議長をなさっているバラキンさんでございます。（拍手）その隣が勤労者代議員ソビエト執行委員会議長をなさっている、イルクーツク州知事のク

ラフチェンコさんでございます。（拍手）その隣が勤労者代議員ソビエト執行委員会議長をなさっている、サハリン州知事のシエフツオフさんでございます。（拍手）その隣が勤労者代議員ソビエト執行委員会議長をなさっている、チタ州知事のドミトリエフさんでございます。（拍手）その隣が代表団の事務局長のフエジヤイノフさんでございます。（拍手）私は団長のチョルヌイでございます。勤労者代議員ソビエト執行委員会議長、ハバロフスク地方知事をしております。どうぞよろしくお願いします。（拍手）

○　宮内全国知事会事務局長　それでは来賓の皆さまのご祝辞をいただきたいと存じます。

まず、日本海沿岸貿易促進議員懇談会会長、衆議院議員稲葉修先生のご祝辞をお願いいたします。

○　稲葉日本海沿岸貿易促進議員懇談会会長　（拍手）本日は日本でも有名なA・K・チョルヌイ、ハバロフスク地方知事を団長とするソ連知事団のご一行をお迎えし、日ソ知事懇談会を開催するにあたりまして、一言祝辞を述べる機会を得ましたことは私の最も光栄とするところであります。

すでに日ソ両国の知事の交換訪問は3回に及び、かつ個人的にも多数の両国知事の交流が行なわれ、両国間の提携がいよいよ緊密化してまいりましたことは私の最も欣快とするところであります。

申すまでもなく、ソ連は世界の経済大国であり、科学、技術、航空工学、産業、芸術、文化等あらゆる分野において刮目すべきものがあります。このことは目下大阪で開催中の万国博でソ連館が全世界の参加国パビリオンの中で非常な人気を博していることにもうかがい知ることができるのであります。しかもソ連は日本の最も近い隣国であり、ばく大な天然資源に恵まれているのであります。両国間の貿易を盛んにし、有無相通じますならば、両国の経済の発展に寄与すること多大なものがあると存じます。さらに貴国のすぐれた文化とわが国の文化との交流を盛んにいたしますならば、

両国国民の相互理解と両国の友好親善をいよいよ増進し、このことは、ひいては世界の平和に貢献し、両国国民の福祉の向上に寄与することもまたきわめて大であると存ずるのであります。

本日の日ソ知事懇談会において、日ソ沿岸貿易の進行と文化交流という二つのテーマについて、両国知事各位のご意見の交換が友好裏に行なわれ、輝かしい成果をおさめられることを確信するものであります。

終わりに、本日はご多忙中のところ駐日ソ連大使トロヤノフスキー閣下がご臨席になり、この会議に錦上花を添えられましたことを感謝し祝辞といたす次第でございます。どうもありがとうございました。（拍手）

○　宮内全国知事会事務局長　ありがとうございました。次に駐日ソ連大使トロヤノフスキー閣下のご祝辞をお願いいたします。

○　トロヤノフスキー駐日ソ連大使　（拍手）尊敬する皆さま、同志の皆さん、まず最初に、今回の日本の知事の皆さまとソ連の地方及び州のソビエト執行委員会議長との懇談会にあいさつを述べさせていただくことをお礼申し上げます。

ご承知のように、いまソ連と日本は貿易、漁業、文化及び科学の分野における交換や航空などの面で、両国の利益のために多面的に結び合っています。代表団の交換も発展しつつあり、また両国の国家活動家や政治活動家の接触も行なわれているわけです。万国博覧会（エキスポ）のソ連館が成功をおさめていることは、日本国民のソビエト人民の生活に対する関心が高まってきたことを明らかに証明しております。

一方先月モスクワで日本の見本市が成功裏に行なわれたことは、ソビエトの人々の、隣国である日本の国民の生活に対する関心が高まってきたことを証明しております。両国の知事がお互いに訪問したり、懇談会を行なったりするという、ソ連と日本との接触の新しい形ができたことは、両国の国民の間の善隣関係を発展させるための一つの基礎をなしています。ここに出席しておられる多くの日本とソ連の知事は、本日仲のよい古い知人

として会いました。両国の知事には共通の興味があり、それは拡大しつつあります。共通の興味が存在していることはお互いに利益のある協力を発展させる基礎をなしております。両国の興味について言えば、これはまず第一に平和と善隣の雰囲気の中で生活をする熱望であり、また新しい経済交流の形である沿岸貿易を発展させる希望であり、またソ連と日本との文化交流への関心などであります。このような気高い熱望と目的はソ連国民及び日本国民の利益に合致すると思います。

今回の懇談会の参加者の方々に対し、両国と両国民の利益のための効果的な協力、日本とソ連の知事の協力を強化し、拡大させる面での成功を心からお祈りいたします。どうもありがとうございました。(拍手)

○　宮内全国知事会事務局長　ありがとうございました。

次にご出席の日ソ知事さんのほうから代表の方のごあいさつをいただきたいと思いますが、最初に日本側有志知事を代表されまして福島県の木村知事さんからごあいさつがございます。

○　木村福島県知事　(拍手)私は福島県知事の木村でございます。このたびソ連の知事友人各位をご招待いたしました日本の26都道府県知事にかわりまして一言ごあいさつを申し上げます。

ハバロフスク地方のチョルヌイ知事さん、ブリヤート自治共和国のピヴアロフ大臣さん、沿海地方のバラキン知事さん、イルクーツク州のクラフチェンコ知事さん、サハリン州のシエフツオフ知事さん、チタ州のドミトリエフ知事さんには、何かと公務ご繁忙のところ遠路はるばるわが国をおたずねいただきまして、心からお礼を申し上げる次第であります。今日は特にこの東京におきましてトロヤノフスキー駐日ソ連大使のご臨席、また稲葉国会議員のご臨席をいただきまして、かくも多数の日ソ両国の知事の参加を得て第3回目の日ソ知事懇談会を持つことができましたことは私どもの最も喜びとするところであります。

昨年の夏日本知事団が訪ソいたしました際は、ただいまご列席のソ連の

知事さん各位より非常なご歓待を賜わりましたことをこの機会に心からお礼申し上げます。

ご承知のように、ソ連と日本とは、日本海という小さな湖を隔てた最も近い隣国として、また経済大国として近年急速な経済、文化の交流の高まりを見せていることはご同慶にたえないところであります。

ことに本年に入りまして、万国博覧会が大阪で開催されるあたり、ソ連館の盛況、日ソ間民間航空の自主運航開始等は、1970年代の日ソ関係の本格的な発展を予測させるに十分であると考えられます。本日の知事懇談会におきましては、両国の州、県の当面する共通のいろいろな問題を取り上げまして隔意なき意見の交換を行ない、お互いの理解と認識を深め、両国の産業、文化、住民福祉の進展、さらには国際平和と安定に貢献いたしたいと念願いたしております。会議終了後は、ソ連知事各位におかれましては6月9日まで地方視察をお願いいたし、万国博覧会をはじめ、各府県における行政、産業等の実態をごらんいただくとともに、各界の指導者や市民と接触され、日本についての認識と理解を深めていただくことを期待いたします。

終わりに、日ソ両国の繁栄とソ連知事各位のご健康をお祈りいたしまして歓迎のごあいさつといたします。ありがとうございました。(拍手)

○　宮内全国知事会事務局長　次にソ連知事を代表されまして、チョルヌイ知事さんからごあいさつをお願いいたします。

○　チョルヌイハバロフスク地方知事　(拍手)尊敬する皆さま、親愛なる同志の皆さん、私たちソ連の極東及び東シベリアの地方と州の勤労者代議員ソビエト執行委員会議長の代表団は、日本全国知事会の親切なご招待に応じて日本に参ったわけでございます。今回のこの懇談会を利用して、ソビエト国民、特に極東と東シベリアの住民から日本国民に心からのごあいさつと、希望をお伝えします。

私たちは日本におけるソ連の代表団と皆さん方との懇談会の結果、日本

の知事とソ連の極東・東シベリアの勤労者代議員ソビエト執行委員会議長との間の接触は前よりもっと密接になると思います。私たちは、今回の日本の知事の方々との懇談会が、日本海に面している日本の府県とソ連の極東・東シベリアの地方・州との間の沿岸貿易、文化交流、経済交流等々の分野における交流を一そう広げることへの基礎になると期待しております。今回の皆さん方との懇談会は、両国の間の親善友好関係を一そう深め、極東の地域における平和の事業を強化し、日本国民とソ連国民の生活上の利益に合致するものであると思います。ソ連と日本とはともに工業の発達した国であり、互いに隣国でありまして、その点では極東の地域で平和の事業を強化する分野において協力する可能性が大きく、そしてそのための基礎も広くてかたいものだと思います。ソ連国民はこのような目的を達するために全力を尽くしております。私たちは今回の日本における滞在を通じ、同じ目的を達成するため全力を尽くしたいと思います。

私たち代表団全員の名において、日本全国知事会の皆さんに、今回の懇談会を行なっていただいたことに対してお礼のことばを申し上げます。ご清聴を感謝いたします。（拍手）

○　宮内全国知事会事務局長　ありがとうございました。

いよいよ議事に入るわけでございますが、議事を進める前に座長さんをご推挙いただきたいと存じます。前例によりまして、日本側から木村知事さんにお願いいたしたいと存じますがご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○　宮内全国知事会事務局長　ありがとうございました。それでは木村知事さんどうぞ座長席へお着き願います。

〔座長、座長席に着く〕

○　木村座長　それではまことに僭越でございますが議長をつとめさせていただきます。国際会議はきわめてふなれでございますので、皆さま方のご協力をいただきまして無事大任を果たしたいと存じます。何とぞよろしくお願いいたします。

それでは議題を採択するわけでございますが、日ソ共同提案といたしまして、1つは日ソ沿岸貿易の振興について、1つは日ソ文化交流について、この2つの議題が提案されておりますが、議題として採択して異議ないでございましょうか、おはかりいたします。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

○　木村座長　それでは異議ないようでございますのでこの2つの議題を採択させていただきます。

それでは初めに日ソ沿岸貿易の振興について、ソ連側からのご報告をお願いいたしたいと存じます。

○　チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　（拍手）尊敬する同志の皆さん、ソ連の東シベリア及び極東の州、地方の勤労者代議員ソビエト執行委員会議長の代表団の名において貴国を訪問し、皆さま方とお目にかかる機会を与えていただき、また本会で発言させていただくことに対し、全国知事会にお礼申し上げます。

今回のソ連の東シベリア及び極東の地方及び州のソビエト執行委員会議長と日本の知事との懇談会は3回目に当たります。第1回の会議は1968年の12月に東京で行なわれました。昨年の7月に私たちは桑原全国知事会会長を団長とする日本全国知事会の代表団の方々とわが国で喜んで面会しました。そしてソ連を旅行なさってソビエトの人々に直接お会いになり、またわが国の経済、文化、生活を見て回られました。また滞在中にソ連閣僚会議の副議長チホノフ氏、ロシア共和国閣僚会議議長ウオロノフ氏、ソ連閣僚会議の副議長であり、ソ連国家計画委員会の議長であるバイバコフ氏、そしてソ連の外国貿易大臣であるパトリチェフ氏に面会されました。

極東及び東シベリアの地方と州の勤労者代議員ソビエト執行委員会議長と日本の知事との懇談会はよき伝統になりつつあります。このような懇談会は日本全国知事との接触を深め、ソ連の東シベリア及び極東の州及び地方と日本の県との貿易、経済、文化の交流を発展させ、また両国国民の親善友好を推進するものと思います。ソ連邦の対外政策の主要方針は世界平和の推進、諸国民の安全、その国の社会制度にかかわりなく、国家間の平和共存、諸国民間の親善の強化のために戦うことにあります。ご存じのようにソ連はその経済、科学、文化などを成功裏に発展させています。工業と農業の非常な成長によってソ連国民の福祉を著しく向上させる条件ができ上がりました。ソ連全体と同じように、東シベリア及び極東の経済も非常な速さで発展しています。ソ連国民は、工業、技術、科学を発展させる面で相当な成績をあげた勤勉な日本国民に対して尊敬の感情を持っています。ソ連政府は日本と経済、科学、技術、文化、貿易などの関係を一そう発展させることに賛成しています。ソ連邦が万国博覧会に幅広く参加していることは、わが国と日本との関係が強固になっている証拠の1つであると思います。万博においてソ連邦の経済上の力強さ、工業を発展させる可能性は、シベリアと極東の発展という具体的な例によって証明されています。言うまでもなくソ連の隣国である日本国民にとって、わが国のこの広い豊富な地域を考えることは相当興味のあることだと思います。ソ連邦と日本との貿易、経済関係はもう長い歴史を持っています。両国間の商品取引を一そう順調に広げる見込みは非常に大きいと思います。その発展の可能性は膨大なものがあり、決していまの水準が最大限のものではないと思うのであります。ソ日貿易の新しい形であるソ連の極東の地域と日本との沿岸貿易は年とともに一そう発展しつつあります。沿岸貿易は、輸出と輸入を別にして1,000万ドルの水準まで広げることをきめた1966年の1月21日のソ連と日本との協定に基づいて行なわれております。1963年は、沿岸貿易の商品取引の総額は87万ドル程度しかありませんでした

のに、昨年 1969 年には 1,430 万ドルの水準に達し、16 倍に増加したわけであります。これだけでもソ連と日本の沿岸貿易が成功裏に発展していることがわかると思います。本年、1970 年も相当な伸びが期待されております。本年の 4 カ月間のダリイントルグの商品取引の金額は 600 万ドルに達しております。両国が積極的に協力すれば 1966 年の協定によって定められている水準に達することができると思います。沿岸貿易の発展は、ソ連の極東の地域と日本海に面している日本の県の利益に合致していると思います。現在ダリイントルグは日本の 18 県の 70 以上の会社、協同組合と沿岸貿易を行なっています。沿岸貿易のわくの中で、姉妹都市であるハバロフスクと新潟、ナホトカと小樽。舞鶴、イルクーツクと金沢との貿易関係も成功裏に発展しています。現在ソ連側では東シベリア及び極東の州及び地方がすべて沿岸貿易に参加しているわけです。

もう一つの意義のある事実は、日本への輸出の拡大だけでなく、輸出品の品目を広げ、そのリストの中に新しい商品も入れて輸出しているということであります。前に日本に輸出されなかった滑石―タルクとか、わらびの芽、こけもものジャムなどの商品が最近輸出されるようになってきました。1965 年にダリイントルグは 28 種類の商品を輸出しただけですが、現在では 50 種類以上の商品を日本に輸出しているのであります。ことしはソ連の地方及び州は日本にあまりたくさんのコンブ、スケソー、イカ、サバ、アジ、イワシなどの魚類を輸出することができません。しかし、このようにダリイントルグが一定の困難にぶつかったのはソ連側だけのせいではありません。特に日本の貿易相手は、ことしダリイントルグのでん粉、果実、漿果のかん詰め、ジュース、薬をつくる原料品などに関する提案に賛成しませんでした。日本へ輸出する商品に制限があって、沿岸貿易を一そう広げることを妨げています。もし輸出に関する制限を廃止さえしたら、沿岸貿易のわくの中の商品取引は大分拡大したのではないかと思います。しかもダリイントルグと日本の貿易会社及び協同組合が長期契約を結んだ

ら沿岸貿易は相当拡大したのではないかと思っております。いま存在している一時的な困難にもかかわらず、ソ連側は沿岸貿易の将来の見込みは確実なものであると考えます。両国がいまのある程度の困難をなくすのに全力を尽くしたら、沿岸貿易を幅広く拡大させることができる確信を持っております。

ソ連は来年 1971 年から 1975 年までの 5 年間に、その商品品目を相当広げ、また同時に沿岸貿易の輸出の分も 1.5 倍増加することができます。方法は日本の貿易会社がいまよりも多くの、耳板、箱材などの材木、また木材からつくった商品もしくは半製品を輸入し、そのためにソ連側も日本側の商品をよけいに買うことであります。ソ連の極東の地域で非鉄金属の鉱物の探険が行なわれております。これはたとえばアームビルスク、これは地名ですが、大理石の原産地、そしてクノーリング、これもまた地名ですが、ここも装飾用張り石の原産地です。こういう原産地の探検がいまソ連で行なわれているわけであります。この点で、日本の貿易会社が装飾用張り石、石くず、大理石がどのくらい要るかということを知りたいわけです。もし日本の会社がシロップ、ジヤム、野生の果実からできた飲みもの、また薬をつくる原料品を買うことに対していまより大きな関心を払われましたら、輸出も輸入も相当増加することができるでしょう。

ソ連から日本に輸出する輸出品をつくるために必要な設備と材料をソ連側へ売ることに賛成さえしてくださるならば、沿岸貿易のわくの中で日本に輸出する品目を広げ、輸出の分を増加することができると思います。言うまでもなく、新しい商品に対する需要と供給を入れましても、沿岸貿易をもっと早く発展させることができると思います。それに関連して、私たちは日本にダリイントルグの代表部を設置するならば、日本とソ連との間の沿岸貿易の商品の取引が増加すると思います。両国の商品に対する需要を研究し、貿易関係を発展させ、経済交流を広げる面で見本市が大きな意味を持っていると思います。この点でソ連側は、日本側がことしの 7 月に

ハバロフスクで見本市を行なう提案に＝成したわけです。ソ連側としては、日本の見本市が沿岸貿易を発展させる面で積極的な結果になるように、できるだけ協力することを約束いたします。

関係者の皆さま、今回の私たちの代表団全員と日本の知事との懇談会が、東シベリア及び極東の州及び地方と日本の県との貿易経済関係を一そう発展させ、両国間の善隣関係を強化し、極東で平和の事業を強化することを助ける確信を表明したいと思います。

終に、代表団全員の名において、お国で厚く歓迎されましたことに対して、重ねてお礼を申し上げます。

ご清聴感謝いたします。（拍手）

○　木村座長　まことにありがとうございました。

それでは、この問題につきまして、日本側の知事さんからお願いいたします。

○　田辺山梨県知事　山梨県知事の田辺でございます。昨年、全国知事会代表団の一員として訪ソいたしました際は、チョルヌイ・ハバロフスク地方知事をはじめ、ご列席のソ連知事各位から特段のご配慮を賜わり、厚く御礼を申し上げます。

日ソ沿岸貿易は、1963年2月モスクワにおいて、第2回目の3カ年長期貿易支払協定が調印された際、その付属交換文書によって規定されたものでありますが、以後、沿岸貿易の額は徐々にではあるが、たゆみなく拡大し、発展してまいりました。

日ソ沿岸貿易の目的は、ソビエトの極東とシベリアの諸地方あるいは州に産出する特産物と、日本で生産される消費物資との交易により、相互の利益と便益をはかることにあるのでありまして、このような沿岸貿易の拡大とその促進は、日ソ両国間の善隣友好と経済交流に大きな力を発揮し、地方経済振興に寄与するものとして期待されているところであります。

しかしながら、その現状を見ますとき、そこに幾つかの問題点が存在す

ることも否めない事実であろうかと存じます。したがいまして、ソ連側におかれましては、日ソ沿岸貿易振興のため、特に次に申し上げます諸事項についてご留意いただき、諸般の改善措置をお願いしたいと存じます。

まず取引品目についてであります。

日本向け輸出品目につきましては、日本側の需要に合うような市場性を持つものにしていただき、規格や数量を明確にされ、沿岸貿易取引品目・種類の増大及び取引量の拡大をはかるとともに、公団扱いの取引品目のうち、その一部を沿岸貿易ワクとして確保せられたいのであります。

特に輸入希望の強い日本向け木材については、輸出量の拡大についてご配慮願いたいと存じます。

次は取引価格についてであります。

日本向け輸出取引価格につきましては、消費協同組合貿易及び公団貿易に比べ、沿岸貿易が割り高となっておりますことが、沿岸貿易の振興を阻＝している一大要因とも考えられますので、さしあたり消費協同組合貿易と同等の取引価格にしていただきたいのであります。

また、ソ連側が受け入れます輸入品目につきましては、日本国内における品目価格の推移等を十分に勘案した適切な価格とされますとともに、契約価格は順守していただきたいのであります。

次に取引方法について申し上げます。

取引方法は、日本のソ連からの輸入先行方式でありますため、輸入の終了後輸出契約が行なわれることとなりますので、取引を適正ならしめるため、輸出入同時契約とし、等額バーター方式を行なっていただきたいのであります。

輸出入契約につきましては、対日輸出契約締結時期、対ソ輸入品物引き渡し時期、対日輸出品物契約量等が不明確でありますので、その完全履行について十分ご配慮願いたいのであります。

また、契約を完全に履行するため、現地検査立ち会い人の増員をされま

すとともに、積み取り立ち合い人の入国を許可せられたいのであります。

クレーム保証につきましては、これは国際商習慣上当然認められるものでありますので、そのクレームを処理する機関の設置について特別の配慮をお願いしたのであります。

日本向け木材につきましては、特にインボイス記載上の品目と実際取引がなされた品目との間に、欠石、規格はずれ等が目立つので、これが改善についてご配慮願うとともに、樹種の選択ができるよう格別に措置せられたいのであります。

次に貿易体制についてであります。

まず、国際商習慣にのっとった貿易事務体制の確立をはかるため、ダリイントルグの権限・機能を強化されますとともに、その所管する地域を拡大せられたいのであります。

また、ジェトロからの貿易情報提供をスムースにする必要がありますので、ジェトロ・センターの設置を許可されますと同時に、ソ連側におかれても、情報提供の機能の充実をはかられたいのであります。

最後に港湾についてであります。荷積み、荷おろし作業を円滑に行なうため、港湾施設の改良、整備を行なうとともに、作業の迅速化をはかっていただきたいと存じます。

以上、日ソ沿岸貿易振興のため、ソ連側におかれて特にご配慮願いたい幾つかの問題点について、日本の沿岸貿易関係県の集約した意見として私から申し上げた次第であります。

今後、沿岸貿易が発展し、両国民の相互理解と親善が深まりますことを心から希望して、私の意見発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○　木村座長　どうもありがとうございました。

日ソ両国の知事さんからそれぞれご報告がありましたので、この問題につきまして活発なるご意見のご開陳をお願いいたしたいと存じます。

〔来賓退席〕

○　木村座長　ありがとうございました。（迫手）

いかがでございますか。ただいままでのお話し合いにつきまして、何かご意見をご開陳願います。

○　田辺山梨県知事　先ほどソ連の貿易振興についてのお話の中に、沿岸貿易の中でソ連のダイヤモンドその他貴石等の輸出をしてもよい。しかし、その必要量というものはどのくらいあるか、必要量を教＝てもらいたいというお話があったように私は記憶しております。その点につきまして私の記憶違いではいけませんので、もう一度、材料を出す製品として半製品で日本に輸出するのか、そ＝からいまのダイヤモンドのほかにどういう石があるのか、その点をもう少しお話を伺いたいと思います。

○　チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　ダイヤモンドではなくて大理石です。その他の上張り石。

○　田辺山梨県知事　その他の装飾用の貴石というのは何ですか。

○　チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　大理石、またネフリットです。大理石は主として上張り石としての建築材料です。

一つだけつけ加えたいと思いますが、いまこういうものの探検調査が行なわれております。地質学による探検調査の報告を聞きますと、大理石をある程度の大きさのブロックで堀り出すことができる可能性がある。しかも、私ども承知しておりますが、日本の商社の皆さんは大理石についてはかなり関心がございますので、これが貿易品目として登場し得るのではないかと思います。

○　木村座長　それでは秋田の知事さん。

○　小畑秋田県知事　秋田県知事の小畑でございます。いま私が提案申し上げることは、たいへん困難なことですが、各州の知事さんにぜひひとつご努力をいただきたいと思っているのですが、それは沿岸貿易拡大で一番隘路となっているのは、私どものほうは木材、地下資源などほしいものがたくさんありますが、日本から出してやるもの、特に私のほうから出してや

るものが非常に少ないので、船がいつも片荷になっていることであります。

そこで私、提案をいたしたいと思いますことは、知事会でつくりましたこれを拝見いたしますと、最近、極東シベリアではいろいろな生産をされておりますが、ここに肥料の生産というのがない。極東シベリアの農産物は相当伸びておりますので、肥料の需要も相当多いと思いますが、必ずしも極東シベリアは肥料の生産が原料の関係から適当かどうか。特に極東・シベリアの御地の学者の話を聞きますと、シベリアの気候風土からいって、非常に速効性というか、効率の高い硫酸アンモニアのようなものが必要だということを聞いております。そこで、私の県では毎月相当の量の塩化カリをシベリアから入れておりますが、それを原料にしてつくった肥料をシベリアに出すことができない。これは本貿易の品目の問題であるとは思いますが、こういう特殊事情のあるものは、シベリアの農産物の増産のために、ある程度のわくは沿岸貿易のわくに入れていただいたらどうか。たとえば木材は公団貿易の中に入っておりますけれども、ある程度沿岸貿易のわくの中にも入っている。こういうことで将来ひとつ、原料を極東シベリアから買っているその際において、シベリアに最も適当な、速効性のある硫酸アンモニアの肥料を、ある程度のわくとして沿岸貿易の中に入れていただけないものか。これを特に強く希望いたしますので、各州の知事さんからも、必要をお認めくださるならばご推進を願いたいと思うのです。私もこれは非常に困難な問題だと思いますが、ぜひ打開したいと思いますので提案をいたしたい。もし、これに対するご所見を承れればたいへんありがたいと思います。

○　チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　それではちよっとお許しを願って発言をいたしたいと思います。

私は田辺先生の非常に内容のある大きな報告を非常な興味をもって拝聴いたしました。そうしてまた、田辺先生方ほかの皆さんが非常な注意をも

ってつくられた一連の問題をお伺いいたしました。もちろん、私たちはこのような問題を注意深く検討する義務があると思います。そうしていままで言われているいろいろな問題のうち、若干の問題をここでご返事できるかと思います。特に沿岸貿易の点で取引される商品品目と、その規模の拡大についてお話ししたいと思います。

現在のところ、ソ連の貿易公団のダリイントルグがことしの沿岸貿易の線で、貿易取引高が一応 2,000 万アメリカドルの貿易ができると考えておりますが、私たちはこれに対して次のような考えをもっております。この 2,000 万ドルのわくをもって、日本とソ連の両方の側が一そう貿易を拡大することに非常な関心を示しております。そうして私たちはいままでもそうでありましたが、これからもまたこの沿岸貿易の路線の形態で一そうこのわくを広げようと努力しております。

そしてこの新しい商品品目を拡大する問題について申し上げれば、これは一定の期間さらにいろいろ検討研究をしていかなくちゃならないと私は思っております。しかしながら、日本側とソ連側の両方の努力があるならば、近い将来において商品品目の拡大をすることができると考えております。それで、現在の時点で貿易わく、あるいは商品品目を拡大することへの一つの障害になつておりますのは、ソ連側ではいろいろ品物を必要としておりますが、輸出入品目の禁止の制限が存在しているということであります。そういうわけですから、この問題を解決するためには両方の側の努力が必要であろうかと思われます。

また、田辺先生が提案されました第二の問題でありますけれども、輸出入の価格の問題であります。ご出席の皆さま方に申し上げますが、私たちは商取引関係、経済関係が両方の側の互恵の上に成り立っているということをよく存じております。そうして年々お互いの貿易が拡大し、またその貿易に参加する商社が増大していますことは、これは両方の側に利益があることを証明していると思います。

沿岸貿易の線で輸出されております材木の値段、価格に関して申し上げますと、日本側に輸出される材木といいますのは、各地方、州のいろいろな行政組織あるいは地方の団体において伐採され、輸出に向けられる材料は土地の原価価格を持っております。この輸出用材木を切り出しているのは、そう大きくないいろいろな機関あるいはいろいろな地方組織が出しております。ですからこの木材の原価はそこの土地で原価が計算され、考慮されて出てきます。

次の問題は、輸出入の同時契約の問題でありますが、沿岸貿易はバーター貿易の原則の上に立っております。ですからこれは輸出と輸入と両方見合わしてつくられていると見ています。それでこの沿岸貿易のバーター貿易の原則は 1963 年に――田辺先生がいまそれを列挙されたわけですが――1963 年に日本政府とソ連政府とがお互いに書簡を交換して、その上に立って行なわれているものであります。

それから沿岸貿易の輸出入の均衡の問題についてお話しすれば、私たちのほうではダリイントルグの報告に従えば、さっき田辺先生が述べられたような問題は起こっておらないように見受けられます。

それから沿岸貿易の輸出入契約の時期についてさっきお話がありましたが、ソビエト側ではやはり長期契約という形で問題を提出しております。それで個々のいろいろなケースにおいてソ連側のダリイントルグも、また日本側の各商社の代表もいろいろな問題について検討をお互いにして、協議の上できめるという形式であると思います。

またご報告の中で、ダリイントルグの権限の拡大ということについてお話がありました。それで私に言わせていただくならば、現在、ダリイントルグの活動範囲は精力的に拡大しております。そしてその証明として、いまここに私たちの代表の中にもイルクーツク州からも、またブリヤート自治共和国の首相もその活動のひとつのあらわれとして今度来日しているわけであります。それで皆さんご存じのようにダリイントルグはこのように

精力的に活動範囲を広げておりまして、それで西のほうから東のほうに、たとえばイルクーツクであるとかブリヤート自治共和国まで3,000キロ以上も影響力の範囲を伸ばしているということを認めていただきたいと思います。そして、現在の時点でいろいろの分野において、東シベリア、極東全域がこれらの問題に加わって参加しております。それですから私たちは全員、全地域が日ソ沿岸貿易の量を拡大するように努力していますし、そう望んでおります。

長いこと皆さんお話をして、時間をとって申しわけないと思うのですが、もう一言だけお話ししたいと思います。

私は、日本からソ連に輸出される、あるいは納入される日本商品の質についてお話ししたいと思います。またその納期の問題について申し上げますと、最近、ダリイントルグの代表者たちが私たちに語ったところによれば、現在、納期が非常に長引いていることと、もう一つは質とデザインというか、モデルが購買者の希望に沿っていない。こういう問題がしばしば現在のところ起こっているということを私は聞きました。そういうわけで、ソ連の市場で迎え入れられる日本の商品が、残念なことに長い間続いて入ってくるということになっていないことを指摘したいと思います。そこで、たとえば私たちの製材業を発展させるためにはワイヤーロープが必要なんですが、私たちの注文に応じてダリイントルグがそのワイヤーロープを購入することができません。もちろん、日本から買わなくても私たちはやっていけるし、またほかのところからも買っておりますが、それが一定の線で受け取ることができないので、非常に仕事が複雑化して困難になっている、ということを言っております。

それからさっきお話いただいた、肥料のことについてお話し申し上げたいと思います。それで小畑先生が先ほど言われました点に関して申し上げますと、次のような例をあげてお話ししたいと思います。

3年間にわたってシベリアの農業科学研究所は、日本側から提出された

豆類のための殺虫剤を研究いたしました。それでその殺虫剤が非常に適合している、あるいは非常に目的に叶っているということを私たちが確信したので、それを買うことにきめて2年間買いました。私たちのところではもっとその量をふやして買うことに関心が集まりました。ところが1970年、ことしですが、残念なことに私たちのほうの責任ではなくてこの取引が成立しませんでした。それで私たちのほうで要求しますのは、一定のきまった価格で長い期間にわたる契約を必要としているということを言いたいわけです。これは貿易そのものをもっと発展させることであると思います。

それから、田辺先生が先ほど港湾問題に関してお述べになりましたけれども、この問題では沿海地方のバラキン議長が専門家でありますので、バラキンさんに一言お話をしていただきたいと思います。長いこと話を聞いていただきまして、ありがとうございました。(拍手)

○ バラキン沿海地方知事　田辺先生は極東における港湾の発展というお話をなさいました。この問題を全体から見れば非常に正しものであると思います。それで知事の皆さま方に申し上げますと、いま極東における港湾の発展はきわめて順調に進んでおります。たとえばナホトカでは積み荷、おろしの港湾も発達していますし、ハバロフスクの港も現在発展しております。それから最近建設を終了した大きな港がナホトカにあります。それは木材の受け入れ、送り出しの大きな係留所であります。それから石油の港も完成しております。私たちのところにおいでになった皆さんはおわかりになると思いますが、ソ連の港湾では非常に機械化が進んでおります。その一つの実証として申し上げるわけですけれども、ダリイントルグ及びソビエト連邦は、この港湾の発展ということに力を入れているわけであります。それでさっきチョルヌイ議長がお話ししました2,000万ドルの商品を日本から受け入れ、また日本に送り出すということもこれらの港で全部やる予定だし、またやるはずでございます。

それから大きな港湾施設の建設についてお話申し上げますと、現在ナホ

トカのすぐ近くに、ウランゲル港の建設を予定しております。そして最近日ソ両国の共同によるこのウランゲル港の建設の契約がすでに済みました。新しい港湾の建設及び既存の港湾の発展は、全体の日ソ貿易だけでなく、沿岸貿易においても、さらにその貿易を伸ばすと確信いたします。このことをちよっと皆さんに申し上げたいと思いました。どうもご清聴ありがとうございました。(拍手)

○　木村座長　ほかにご発言ございませんか。

○　竹内青森県知事　青森の竹内でございます。ただいまのチョルヌイさんのお話よくわかりました。木材が、各地方から出てきて、そこで地方原価というものがある。また地方から出されるという、その事情もよくわかりました。そのために受け入れるほうに多少問題があるので申し上げるのですが、その原価を未来貿易のレベルまでダリイントルグで調整して出すことができないかということが一つ。それからもう一つは、地方、地方から出てきますから規格が必ずしも統一されていないということです。先の田辺報告にもございましたが、違うものさえたまには入ってくる。こういうことを調整するのがダリイントルグの一つの役目ではないか。それを何とかしてほしいということを田辺報告で申し上げているわけです。もう一つは、バーターについてです。いまお話があったことはよくわかります。それだからこそ、輸出と輸入とを同時に契約していただけないかということをお願い申し上げているわけです。それからなるべく長期契約をしたいというチョルヌイさんのお話はよくわかります。私のほうでリンゴを買っていただいておりまして、――これは毎年契約でありますが、長期契約が双方都合がついてできれば一番いいのですが、ご承知のように日本は相当経済が伸びていて、そこへもってきて毎年物価が高くなる。そういうことも関連してそう長期の契約はむずかしい。こういう事情もわかっていただいて、もう少しゆとりのあることで双方見ていくということにしていただけないか、その3点です。

○チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　私はハバロフスクでリンゴを買うとき、いつも竹内先生を思い出します。（笑い）特にリンゴが高いときはそれを思い出します。（笑い）

○竹内青森県知事　チョルヌイさんはリンゴを買うとき、必ず去年と同じ値段でというお話を先にされる。しかし、日本の物価に動きがあってそのとおりにいかないので、同一価格で長期契約といっても、農産物はわりあいその可能性はあるんだが、それでも相当動きがあるから、やはりお互いにそれを見て、実情に合った契約でお互いに必要なものを入れる、ということにしてもらいたいと思うのです。

○チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　ナホトカのダリイントルグの職員の皆さんはなかなか話をつけにくい相手でございますので、（笑い）しかし、いまおっしゃったことはダリイントルグの皆さんに必ずお伝えいたします。

○木村座長　たいへん有意義なご意見をご発言いただきましてまことにありがとうございました。なかなか話は尽きないようでございますが、時間の関係上次の問題に移りたいと考えます。

　それでは日ソ文化交流についてソ連側の知事さんからご報告を願いたいと思います。

○バラキン沿海地方知事　尊敬する皆さま、同志の皆さん、こういう懇談会の席で発言させていただいて、まず初めにお礼のことばを申し上げます。

　ソビエトと日本との国交回復の共同宣言が調印されてからことしで14年になります。この間ソ連と日本との間の貿易、経済、技術、科学、文化などの各分野における関係と国家活動家及び社会活動家の接触が発展しています。国交回復宣言の調印後、1957年に初めてソ日貿易協定、そして漁業条約、ソビエトと日本との直接公開航路の開設に関する協約、モスクワ・東京間の極東航空路の開設に関する協定、ツーリスト関係の協約などが結ばれ、これらすべてはソ連と日本の将来の発展の基礎になったと思います。

もう数か月にわたって日本で万国博覧会が開催されています。私たちの知っているところでは、ソ連館は見物人に人気があるわけです。これは日本国民がソビエトの人々の生活を労働に大きな関心を持ち、わが国の生活についてできるだけたくさんのことを知りたいからだと私たちは思います。万国博覧会のソ連館の活動の一面として、日本国民にソビエトの文化の概念を得させるための仕事が行なわれております。万博のさまざまの舞台でソ連の俳優のコンサートが催されています。これからもわが国からの一連の芸術団、学者、歌手の催しをする計画があります。一方、ことし日本から桐朋学園という日本の音楽学校の弦楽器オーケストラ、そして沖縄の舞踊合唱団、また第2回国際チャイコフスキー音楽コンクールの受賞者である潮田というバイオリニストなどがソ連に来て演奏をする予定です。文学分野のソ日関係は豊富であり、実りの多いものであります。私たちの知っている限り、ロシア並びにソビエト文学が日本の人びとの間でよく知られ、非常にポピュラーなものになっております。ソ連では日本の作家の翻訳は高く評価されております。ここ数年間に日本語から翻訳された作品が650万部以上出版されたことだけをお伝えしても十分であろうと思います。

ソ連の国民は興味をもって日本の鉄斎、北斎という有名な画家の展覧会を見ております。そして日本ではソ連のレニングラードにあるエルミタージュの絵の展覧会も成功裏に行なわれました。そして日本でロシア語がだんだん広く教えられ、ソ連で日本語の勉強が進んでいることも両国の国民がお互いに大きな関心を持つようになることに貢献すると思います。そして年とともにソ連と日本との芸術家の交流も拡大し、深まっております。芸術家といいますのは、作家、画家、作曲家、映画芸術家などを意味しております。そのほかスポーツの分野においてもソ日の間の交流がだんだん発展しつつあります。

現在日本ではソ連と友好親善を深めることを目的にしている協会が存在し、活動しております。そしてその活動に参加している日本の人々の数は

年とともにふえていることも喜ばしいものたと思います。そして日本全国知事会の方々もソ連国民との親善友好を深める目的を持っている協会の活動にも参加し、お手伝いをなさっておられることを非常に喜ばしく思っております。私たちの国においては 1958 年に創設された、会員およそ 50 万人を持つソ日協会が積極的に活動し、ソ連の都会と町、特にレニングラード、ハバロフスク、イルクーツク、ナホトカなどでこの支部を持っております。

両国の友好的な関係、交流が発展しつつある過程の中で、最近将来見込みのある新しい形ができ上がりました。その新しい形とは、ソ連の都市と日本の都市が姉妹都市になるという運動だと思います。一番初めに姉妹都市になったところは日本の舞鶴とソ連のナホトカです。その次に新潟とハバロフスク、横浜とオデッサ、金沢とイルクーツク、広島とボルゴグラードも姉妹都市になる協定を結びました。現在モスクワと東京、レニングラードと大阪、キエフと京都、サハリン州と北海道との間に友好的な交流が行なわれております。ハバロフスク地方と兵庫県、ニラツクと七尾との間の交流、接触も深まりつつあります。そうして両国の姉妹関係を結んだ都市の間の友好親善交流がうまく行なわれていることを、私たちは非常に嬉しく思っているのであります。たとえばナホトカと舞鶴、ナホトカと小樽、ハバロフスクと新潟が姉妹都市になる協定を結んでからは、計画どおりに代表団の交換、写真展、いろいろな情報材料の交換などが幅広く行なわれているのであります。

最近、たとえば姉妹都市であるナホトカと舞鶴、ナホトカと小樽はもう 25 以上の代表団の交換を行ないました。これをもっと詳しく申しますと、この代表団は教師、医師、工場労働者、青年、婦人などの代表団でありました。またハバロフスクと新潟も姉妹都市として、その間に代表団の交換なども広く行なわれております。私たちの考えでは、このことは両国の国民の間の相互理解を一そう深めるために大きな仕事をしていると思います

が、それと同時に日本の知事の方々とソ連の州と地方のソビエト執行委員会議長も、いまよりもうまく、いまよりも広くこの分野における可能性を利用することができると確信しております。この点では、私たちの考えでは、近い将来にソ連の州と地方の代表と、日本の県の代表の懇談会、会議を開くことについても役に立つのではないかと思っております。

これからソ連側からの具体的な提案に入りますが、まず第一に、ことし、1970年に私たちは、日本側からもソ連側からも、およそ20くらいの代表団の交換を行なうことを提案しております。代表団の内容としては、前にも言いましたとおり、婦人、教師、医師などの代表団の交換を行なうことを提案しております。またこういう代表団の交換だけではなくて、たとえばいろいろな選手――スポーツの代表団の交換や舞踊団などの交換を行なうことも討議したいのです。

それから、双方に興味のある分野の一つは、たとえば都市建設、そして都市の経営などのことも両国に興味のある問題だと思って、その点では将来においてソ日シンポジウム、ソ日懇談会を行なうことも提案したいのです。そのほかにソ連側は空気の汚染をなくす方法、交通事故をなくす問題などについても、いろいろな情報の交換を行なうことを提案します。また幼稚園、託児所、小学校、中学校の子供の教育の問題についての資料の交換も提案をしたいのであります。

そのほかに民芸品の展覧会、そしてたとえばアマチュア画家、子供さんの絵の展覧会などの交換もソ連側から提案をする次第であります。また映画――短編映画でも長編映画でも――映画の交換を行なうことを提案いたします。この映画の内容を詳しく言いますと、これは両国の国民のことを物語る、両国の国民生活、両国の国民の習慣、お祭り、そして両国の都会と町の様子、そして日本とソ連たとえばシベリア極東の自然のことを物語る映画の交換を行なうことを提案するのであります。そうして、ソ連の州及び地方と日本の県との間の交流、交換を一そう深めるために、ソ連から

は州と地方のソビエト執行委員会議長と、日本側からは県の知事さんが入る適当な組織、機関がもしできさえしましたら、両国の間の交流はいまより一そう深くなり、一そう拡大するのではないかと思います。

尊敬する皆さま、いまソ連側の出しました提案に対してご協力を得られますならば、これは両国の国民の間の親善友好関係と相互理解を深めることへの貢献になるという確信を持っております。

ご清聴感謝いたします。（拍手）

○木村座長　どうもありがとうございました。次に、この問題につきまして日本側の代表、兵庫県の金井知事さんにお願いいたします。

○金井兵庫県知事　私にも発言の機会を与えていただいてまことにありがとうございます。ただいま、たいへん有益なご提案を伺いまして、非常にけっこうなことだと考えております。この際、私の意見について申し上げたいと存じます。

初めに、昨月７月貴国を訪問いたしました際はたいへんお世話になり、心から感謝いたしております。本日、日本において団長チョルヌイ・ハバロフスク地方執行委員会議長をはじめ、団員各位と再びお会いできたことをたいへん嬉しく思います。

さて、ただいま、ソ連邦側よりご提案になりました文化交流について、バラキン沿海地方知事さんよりご意見を伺いました。もとより、文化の交流は両国民の相互理解と友好親善を深める上においてきわめて重要であります。

また、人類の進歩と調和をテーマとして、わが国において万国博が開催されておりますとき、このような議題について意見交換が行なわれますことは、まことに意義深いと存じます。万国博会場内における各国の展示館のうち、ソ連邦館は最も規模の大きいものの一つであり、展示内容も充実し、非常に人気があって、連日非常な賑いを呈していることをお知らせいたし、ソ連邦の万国博に対する協力に対し、感謝申し上げている次第であ

ります。

最近、日ソ両国の親善友好の気運が急速に高まり、両国民の相互往来が盛んとなり、多数の有名な芸能文化団体による文化交流が活発になってまいりまして、このことが両国の友好親善に拍車をかけている現状であります。このときにあたり、日ソ両国政府の間において近く文化交流の取りきめが行なわれると聞きますことは、まことに喜びにたえません。これによりまして、両国文化の交流が一そう円滑に行なわれるものと思います。

わが国のことわざに「百聞は一見にしかず」ということばがあります。これは実物を直接観察することが重要であることを教えたことばであります。今回のソ連邦知事各位の視察日程の中には、わが国の文化財及び文化関連所産物を視察していただく計画が多数含まれております。京都は8世紀の終わりから19世紀の半ば――1868年――まで都のあったところで、日本人の心のふるさとであります。特に庭園において、平和を愛し、自然を愛好する日本人の精神的所産をごらんいただきたいと思います。

また、現代の生活文化に大きな恩恵を与えているテレビ等の工場視察が計画されております。さらに万国博会場内における日本館及び地方自治体館の展示においてもまた、わが国文化の紹介が数多くなさ＝ており、これらは文化国家を目ざすわが国民の共感を得ております。

ただいまわが国は、狭い国土の中で経済開発を進めており、このことが文化財保護、自然保護と競合し、この開発と保護をどのように調和させるかが問題となっておりますことを付言いたします。

最後に、お手元に配付しております書類の中に、日本の府県とソ連各地方との間に行なわれました文化交流の実例が書いてございますが、これはきわめて有効なものであると存じておりますので、さらにこれらの拡大を希望いたしますとともに、このたびソ連邦知事各位がご健勝にて楽しい視察ができますよう希望いたしまして、私の意見発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

有志都道府県とソ連邦関係地方との

文化交流事業の実例（参考）

1．児童・青少年の絵画、歴史的遺跡・経済開発・日常生活等を知るための写真の交換

2．両国の音楽、特に民謡等についてのレコード、楽譜の交換

3．両国の地方工芸品および民芸品の交換

4．ソ連関係地方政庁において製作された広報映画と日本の有志都道府県のそれとの交換

5．農業、福祉、教育等の諸施設視察についての便宜供与

6．図書資料等の交換

7．美術工芸品等の展示会に対する協力

8．珍らしい樹草の種子交換

○木村座長　ありがとうございました。

それではこの機会にお話し申し上げますが、この問題につきまして、日ソ両国からいろいろご意見のご開陳をお願いいたしたいのでございますが、時間がまいりましたので。なお、ソ連の知事さん方は来月の9日まで日本においでになるはずでございますので、機会がありましたらならばその折りにご意見を拝聴することにいたしまして、この問題を打ち切りたいと存じますが、いかがでございましょうか。

〔「異義なし」と呼ぶ者あり〕

○木村座長　どうもありがとうございました。これで本会を終わることにいたしますが、青森の知事さんからこの機会にソビエトの知事さん方に特にお礼を申し上げたいということで、発言を求められておりますので、お許しを願いたいと思います。

○竹内青森県知事　お礼をかねてご報告申し上げたいと思います。2つございます。

一つは、1964年に訪ソいたしました際に、バイカル湖におきまして、バイカル湖だけにしかいないという魚種、オームリを見まして、バイカル湖と水温、水深がよく似た青森県の十和田湖にこれを移したい、分けていただきたい、こういうことを考えてソ連政府に交渉をいたしました結果、1969年、昨年、卵を10万個もらって、そのうち5万個を青森県で受け取り、5万個は農林省の試験場に分けました。そのかわりに青森県から金魚と色鯉を送ってほしいということで、これは卵ではなく稚魚を送りました。交換をしたのであります。さいわい孵化に成功して、その後順調に育っており、いま15センチくらいになりました。3年後に皆さんがおいでになったときは、青森でご歓待できると思います。

いま一つは、チョルヌイさんには青森県のりんごを買ってもらってたいへんありがたいのですが、りんごにいろいろな虫がつきますので、それをなくすために農薬を非常にたくさん使います。そのためにほとんど昆虫がいなくなって、いま花粉の媒介を昆虫ですることができなくなり、人工授粉をしております。その昆虫でシベリアに適当なものがいないかという相談をしましたら、いるということでした。私のところの蜜ばちは15度以下になると飛びません。15度以下でも飛ぶようなはちをほしいということを言いましたら、そのはちを送ってくださいました。これも順調に育っており、いま山の中で、日本のはちと混血しないままにふやすために隔離して、順調にふえております。これは15度以下でも飛べます。これがふえてくると、青森県のりんごは昆虫で花粉を運ばれますから、もっとおいしくなりますから、もっとりんごを多く買ってもらいたいと思います。（笑声）ただ、学者の話によると、10年くらいたつと、日本になれてしまって15度以下では飛ばなくなるのではないかということを言いますので、私ははちに、おまえはあくまでもソビエトのはちだ、そして日本のりんごを媒介しなさい、こう言っております。

どうもありがとうございました。（拍手）

○木村座長　どうも長時間にわたりまして熱心なご討議、まことにありがとうございました。懇談会はこれをもって終了いたしますが、懇談会の終了にあたりまして、ソ連の知事さんの代表チョルヌイさんから一言ごあいさつをお願いいたします。

○チョルヌイ・ハバロフスク地方知事　（拍手）同志の皆さん、来賓の皆さん及び皆さん、きょうは両国側の非常に興味のある問題を討議しながら、皆さま方にお会いできましたことを非常に嬉しく思っております。

私たちは、日ソ両国の知事のこのような接触、交流が始まりましたことを非常に高く評価しております。そして日ソ両国の知事の接触、交流が今後とも両国の国民の利益になるように、お互いに発展することを私たちは希望し、そして期待しております。そして代表団全員の名前において、皆さま方が高貴な皆さま方のお仕事でご成功されるように、またご健勝でありますように心から希望して終わりたいと思います。

ありがとうございました。（拍手）

○木村座長　ありがとうございました。

次に、日本側有志知事代表の香川県の知事さんにお願いいたします。

○金子香川県知事　（拍手）本日は早朝からきわめて熱心に、しかもなごやかに友好裡に行なわれましたこの懇談会を終わるにあたりまして、本日出席をいたしております日本の知事を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し述べたいと存じます。

本年はソ連におかれては、国をあげてレーニン誕生百年祭が盛大に行なわれました。日本におきましては世界各国の協力を得て万博がはなばなしく行なわれております。まことに両国にとりましては記念すべき年でありますが、この年の本日、ここに私どもの尊敬する、しかも、非常に親しみ深いソ連の知事の皆さんをお迎えいたしまして、日ソ知事懇談会が盛大に開催されますことは、まことに意義が大きく、私ども非常に喜びを感じている次第でございます。

本日はこの懇談会において、きわめて熱心に討議されました日ソ沿岸貿易の振興と、日ソ文化交流の問題は、日ソ両国の友好親善の上に美しく大きく花を開いて実を結びますことをかたく信じ、また、ソ連の知事さんのご健勝をお祈り申し上げまして、ごあいさつにかえさせていただきたいと存じます。

ありがとうございました。(拍手)

○木村座長　これをもって日ソ知事懇談会を終了いたしたいと存じます。長い間にわたりましてご協力まことにありがとうございました。

午後零時20分散会

〔付〕

ソ連邦地方および州勤労者代議員ソビエト執行委員会議長の訪日に関する日ソ共同声明

日本国有志知事の招請により、ソ連知事団一行は、1970年5月28日から、同年6月9日まで日本国を訪問した。

ソ連知事団一行は、次のとおりである。

A・K・チョルヌイ氏	ハバロフスク地方勤労者代議員ソビエト執行委員会議長 代表団団長
N・B・ピヴオヴアロフ氏	ブリヤート自治共和国閣僚会議議長
G・N・バラキン氏	沿海地方（プリモーリスコイ）議長
Y・A・クラフチェンコ氏	イルクーツク州議長
A・V・シエフツオフ氏	サハリン州議長
N・I・ドミトリエフ	チタ州議長

それにソ連科学アカデミー東洋学研究所所員

V・T・フエジャイノフ氏が代表団に随行した。

ソ連知事団一行は、東京都、京都府、福井県、大阪府、岐阜県、愛知県、神奈川県等日本国のいくつかの都府県を歴訪し、日本の経済、文化および習慣を知る機会を得た。

東京においては、外務大臣愛知揆一氏、通商産業大臣宮沢喜一氏および東京都知事美濃部亮吉氏と会見した。

その他訪問各府県においては、それぞれの知事、副知事および市長と会見して懇談した。

大阪においては、2日間にわたり万国博を訪問した。ソ連館および日本館、その他諸国の館を視察し、また日本の各商社の館を訪れた。

5月30日東京帝国ホテルにおいて、日本海沿岸貿易促進議員懇談会会長

＝修氏、駐日ソ連大使０・Ａ・トロヤノフスキー氏、外務省欧亜局参事官中尾賢次氏が来賓として出席し、日ソ知事懇談会を開催したが、この懇談会には、ソ連側から、前記ソ連知事団と、日本側から、青森県知事竹内俊吉氏、秋田県知事小畑勇二郎氏、福島県知事木村守江氏、新潟県知事亘四郎氏、山梨県知事田辺国男氏、富山国知事中田幸吉氏、兵庫県知事金井元彦氏、香川県知事金子正則氏、大分県知事木下郁氏、愛知県副知事岩瀬繁一氏、山口県副知事岸本孝二氏等の各知事及び副知事が出席した。

この懇談会においては、日ソ沿岸貿易の振興についておよび日ソ文化の交流についての２つの議題が採択され、真剣な討議が行なわれたが、今回のような日ソ知事の懇談を通じ、日ソ両国の経済と文化の交流は、ますます発展し、両国民の福祉と世界の平和に寄与するものと信ずる。

両者は日ソ両国間の経済・文化交流が一そう盛んになり、一方、日ソ両国民が一そう固いきずなで結ばれるようとの希望を表明した。

今年は、ソ連国民にとっては、ソ連国家の創始者Ｖ・Ｉ・レーニン生誕百年を迎え、日本国においては、「人類の進歩と調和」をテーマとする世紀の万国博がアジアで始めて開催され、ともに記念すべき年にあたり、日ソ知事懇談会が開催されたことは、意義深いものがある。

ソ連知事代表団は、その訪日の日程を終了するにあたり、日本滞在中代表団に与えられた暖いかつ友好的な歓迎に、感謝の意を表明するものである。

1970年６月８日　東京

ハバロフスク地方勤労者代議員　　愛　知　県　知　事

ソビエト執行委員会議長　　桑　　原　　幹　　根

代表団団長

　A・K・チョルヌイ

昭和45年度ソ連知事団を招待する有志知事名簿

北海道知事	町村金五	石川県知事	中西陽一
青森県知事	竹内俊吉	岐阜県知事	平野三郎
秋田県知事	小畑勇二郎	○愛知県知事	桑原幹根
○岩手県知事	千田正	福井県知事	中川平太夫
○山形県知事	安孫子藤吉	大阪府知事	左藤義詮
宮城県知事	山本壮一郎	○兵庫県知事	金井元彦
福島県知事	木村守江	鳥取県知事	石破二朗
新潟県知事	亘四郎	○島根県知事	田部長右衛門
東京都知事	美濃部亮吉	広島県知事	永野厳雄
神奈川県知事	津田文吾	山口県知事	橋本正之
山梨県知事	田辺国男	香川県知事	金子正則
長野県知事	西沢権一郎	長崎県知事	久保勘一
富山県知事	中田幸吉	大分県知事	木下郁

（注）

○印の知事は発起人知事である。